

(

## 令和3年度 学校評価実施報告書

学校名 ( 双ヶ丘中学校 )

### 教育目標

「探究心を持って未来を創造し、心豊かにたくましく生き抜く生徒の育成」

### (1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

#### 重点目標

- ・本校の学習課題を明確にし、新学習指導要領を踏まえ、各教科・領域の指導と評価の一体化を意識した授業改善を図る。
- ・多様な学習形態を取り入れ、生徒が身につけた知識や技能を活用する場面を設定して、主体的・対話的な学びの充実を図る。
- ・探究活動を意識した系統的なキャリア教育(生き方探究教育)を充実させ、主体的に学習に取り組む力を身に付けることで、学習意欲の喚起を図る。
- ・総合的な学習、道徳を中心とし、教科等横断的に学習効果を図るカリキュラム・マネジメントを確立し、授業改善につながる校内研修・協議の充実を図る。
- ・GIGAスクール構想のもと、ICT機器を活用した学習を積極的に取り組む。

#### 具体的な取組

- ① 授業において「めあてや見通し」の確認とそれに対応した「まとめ」を的確に行い、学習の「振り返り」により、生徒が自分の学習を評価(価値や意義)することを徹底する。
  - ② 教科指導の在り方として、学習確認プログラム等への生徒の取り組み方など、各学年の取り組みと自学自習との関連を図るとともに、結果を分析し課題を明確にした授業改善に取り組む。
  - ③ 授業力向上を図るため、教員が相互に高めあうための授業観察および指導助言を行うとともに、研究授業や研修会への積極的な参加を促す。研修会で得た成果を伝達研修し、教職員間で共有を図る。
  - ④ 若手・中堅教員実践道場など、OJTを取り入れた研修を充実させる。
  - ⑤ タブレットドリル等、ICTを活用し自主的に家庭学習等の定着を図る。
- 本校は、探究活動を土台に総合的な学習の柱として「生き方探究教育」中心に、カリキュラムマネジメント推進の観点から必要に応じて教科横断的視点を取り入れ、学習意欲の向上へとつながる取組とする。

#### (取組結果を検証する) 各種指標

(指標)

- ・授業改善による生徒の変容
- ・学習確認プログラムの結果
- ・研究授業の授業研修会の研究協議(指導主事からの授業評価。)
- ・教職員との面談

(アンケート項目)

- ・授業内容がよくわかる。(生徒向け)
- ・授業のねらいをはっきりさせている。(生徒向け)
- ・板書、ワークシートはわかりやすい。(生徒向け)
- ・教育活動の内容や子どもたちの様子などが保護者に伝えられていますか。(保護者向け)

	<p><b>各種指標結果</b></p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果</p> <p>国語 本校 65.0 京都府 65.0 全国 64.6</p> <p>数学 本校 55.0 京都府 57.0 全国 57.2</p> <p>○3年 学習確認プログラム(1st Stage)の結果</p> <p>総合 本校 52.0 全市 54.2</p> <p>国語 本校 64.5 全市 66.0</p> <p>社会 本校 51.7 全市 53.6</p> <p>数学 本校 49.8 全市 49.2</p> <p>理科 本校 44.4 全市 49.3</p> <p>英語 本校 49.2 全市 55.8</p> <p>○全生徒 学校アンケート項目（質問項目を変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、集中して先生の説明を聞いている</li> </ul> <p>よくできている：44.9% 大体できている：49.4% あまりできていない：4.6% できていない：1.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、ノートやワークシートを丁寧に書いている</li> </ul> <p>よくできている：53.1% 大体できている：35.0% あまりできていない：10.8% できていない：1.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、家で学校の授業の予習・復習をしている。</li> </ul> <p>よくできている：22.0% 大体できている：41.0% あまりできていない：30.4% できていない：6.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して、コミュニケーション能力（お互いの考えていることを伝え、理解しあえる力）が身についた。</li> </ul> <p>よくできている：50.6% 大体できている：43.0% あまりできていない：5.3% できていない：1.1%</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>全国学力・学習状況調査の正答率を見ると、国語は全国・京都府と同水準であり、数学は低かった。国語の正答率では、話す・聞くに関する項目において低く、書くに関する項目が高かった。数学では、多くの項目で下回ったが、中でも問題形式の記述式の項目では、かなり低かった。これらの改善を図るためにも、定期テストや単元テスト等の作問についても工夫が必要である。</p> <p>学習確認プログラム(1st Stage)、全市平均と比べ数学は同水準であり、総合をはじめ、国語・社会・理科・英語はやや低かった。2年生後半から成績が下がってきていることを考えると、進路に向けてもう一度課題を分析し、改善を図る授業展開を見直す必要がある。生徒側の要因として、アンケートからもわかるように、家庭学習が十分に定着しきれていない点が考えられる。塾に通うなど時間的な制約が考えられるが、自己の課題を見つけ、改善するためにも、家庭での予習・復習の意識を高めることが課題である。</p> <p>また、生徒は授業に対して真面目に取り組んでいるが、学校教育目標にも挙げている探究のためのコミュニケーション能力など、今求められている力は、十分には定着していない。コロナ禍で改善を図るために、各教員が言語活動や ICT を活用した授業づくりが必要である。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題を確認するための予習・復習をはじめとした家庭学習の充実が必要である。そのための学習について指導を充実させる。そのための時間の使い方についても意識を高めていきたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍では、難しいと思うが、小集団活動で言語活動や ICT を活用した授業を進めるとともに、探究的な学習で能動的な授業を創造する等、授業改善を進めていきたい。</li> <li>・新学習指導要領の実施で、新たな観点を踏まえた指導と評価を踏まえ、校内研修や若手、中堅・若手実践道場などで授業改善に向けて推進を図りたい。</li> <li>・定期テスト問題の工夫。</li> </ul>
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業での協議な内容</li> <li>・各教員の自己評価</li> <li>・定期テスト問題の検証</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中で、学校が取組を工夫して実施していただいていることは、評価していただいた。しかし、結果につながっていないことに今後の改善を期待されている。</li> <li>・学校運営協議会として、協力できることは積極的に支援していきたい。</li> <li>・GIGA 端末などの活用について、どのように工夫をされているか質問があった。今後効果的な活用を工夫してほしいとの要望が出た。</li> <li>・学校運営協議会の理事会や総会で学校を取組を検証する機会を増やし、建設的な意見交流をしていきたい。</li> </ul>

## (2)「豊かな心」の育成に向けて

<div>重点目標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」の時間を中心に、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図る。</li> <li>・様々な場面を通して、規範意識の育成を図る。</li> <li>・自尊感情（自己肯定感や自己有用感）や自己指導能力・共感能力の育成を図る。</li> <li>・いじめや暴力を許さない生徒を育成する。</li> </ul>
<div>具体的な取組</div> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教科「道徳」の指導充実に向けて、内面を塗り替えていく「考え、議論する」道徳指導を展開する。生徒間の意見交換を大切にする場の設定や指導の転換を進め、教材を工夫した道徳の時間を進める。また、道徳の評価についても研修を深めて、生徒の意識を高める評価を実践する。</li> <li>② 「あいさつができる 時間を守れる 人の話がしっかり聴ける」などルールを守り、他人を尊重できる生徒を育成する。そのため、教職員もともに実践する。</li> <li>③ 自己有用感等の自尊感情を高めるため、生徒の主体的な活動を重視するとともに、集団の一員として責任を果たし自分への自信を深める取組を進める。また、体験的な学習や行事的な学習を中心に、ひとりひとりの生徒に成就感を持たせる。</li> <li>④ 生徒の人権感覚を高め、他者を思いやる気持ちを育む取組を学校全体で推進する。</li> <li>⑤ 華道体験を通して、伝統文化を受け継ぎ伝える取組を推進する。</li> </ol> <p>各学年の代表生徒が全校生徒の前で自分の思いや考えを発表する「トークイン双ヶ丘」を年間2回実施して、生徒の発表する力と聴く力の育成を図る。そして、他者の意見と自分の意見を調整してより良い合意を目指す視点を持たせる。</p>

(取組結果を検証する) 各種指標

(指標)

・ 道徳研究の取組による生徒の変容 (指導主事からの授業評価。)

・ キャリアパスポート記載内容

・ アンケートの結果

(アンケート項目)

・ 学校の約束事やきまりを守っている。(生徒向け)

・ 学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じることができる。(生徒向け)

・ 教職員は、子どもの良いところは認め、いけないところは、注意していますか。(保護者向け)

・ 子どもは、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることができている。(保護者向け)

中間評価

各種指標結果

○学校アンケート項目

・ 学校の規則や約束事をまもっている。(生徒)

よくできている : 60.2% 大体できている : 28.0% あまりできていない : 1.4% できていない : 0.7%

・ 学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じることができる。(生徒)

よくできている : 51.7% 大体できている : 40.7% あまりできていない : 6.1% できていない : 0.9%

・ 先生は、良いところは認め、いけないところは、注意してくれる。(生徒)

よくできている : 67.1% 大体できている : 30.6% あまりできていない : 1.8% できていない : 0.5%

・ 教職員は、子どもの良いところは認め、いけないところは、注意していますか。(保護者)

よくできている : 13.4% 大体できている : 59.8% あまりできていない : 6.3% できていない : 1.1%

わからない : 19.6%

・ 子どもは、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることができている。(保護者)

よくできている : 11.7% 大体できている : 70.4% あまりできていない : 11.2% できていない : 3.9%

わからない : 2.8%

・ 「道徳」の時間など、自分の生き方や望ましい言動について楽しく学んでいる (生徒)

よくできている : 47.5% 大体できている : 45.8% あまりできていない : 5.3% できていない : 1.4%

自己  
評価

分析 (成果と課題)

・ コロナ禍で制限された学校行事ではあるが、積極的に取り組んでいる生徒が多い点は評価できる。取組を通して、各自の役割を果たすことの積み重ねによる自己有用感等の自尊感情を高める活動の継続が必要である。

・ アンケートより、道徳に関しては楽しんで学んでいる生徒も多く、ある一定の成果は見られる。

・ コロナ禍で取組が制限される中、生徒と教職員の信頼関係は、良好であるとうかがえるが、保護者との関係づくりに苦慮している点もある。

分析を踏まえた取組の改善

・ 行事はもちろん学級や学年の取り組みにおいて、生徒一人一人に適切な役割を与え、その役割を確実に達成させるステップを積み重ねていきたい。

・ 「しなやかな道徳」の研究主題としている「考え、議論する」道徳指導を展開するため、指導案作りの段階から、指導主事の助言をいただき授業改善を推進する。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業の振り返り</li> <li>・キャリアパスポート記載内容</li> <li>・アンケートの結果</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で制限された中であったが、学校行事や生徒会活動・部活動に対して、できる範囲で生徒たちが頑張っていたとの報告を聞いて安心している。</li> <li>・学校運営協議会として協力できる取組には、積極的に支援したいとお話をいただきました。</li> <li>・アンケートの項目にもある、「自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすること」ができる指導をしっかり進めてほしいとの要望が出た。</li> </ul>

### （３）「健やかな体」の育成に向けて

<p><b>重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応する教育活動を推進する。</li> <li>・基礎体力の向上や基本的生活習慣の確立に向けた指導を推進する。</li> <li>・安全教育（生活・交通・防災）の充実を図る。</li> </ul>
<p><b>具体的な取組</b></p> <p>① コロナ禍において、新たな生活様式を踏まえた日常生活における健康観察の意識づけを図る。朝学活の健康観察の意義について、自分自身はもちろん周囲の人の健康状態を把握することで、感染症対策等、日々の健康面についての認識を深める。</p> <p>② 中学生の健康・安全に対する課題（薬物乱用防止，食育，性に関する指導，自転車交通安全等）への対応を含め、学校の教育活動全体を通じた体系的な学校保健・安全の充実を図る。</p> <p>③ 基本的生活習慣の確立を目指し、学校と家庭が連携し、運動・食事・睡眠などの生活習慣を子供たちが規則正しく身に付けるための連携を図る。</p> <p>④ 生徒のバランスの取れた生活や成長に配慮するため、部活動指導の充実を図る。</p> <p>危機管理マニュアルの見直し，実態にあったものに改善する。特に自然災害時の規定の確認をはじめ，災害が発生した時のスムーズな対応が取れるようにする。救命救急講習等で培った力を地域防災の視点で地域との連携を深める。</p>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <p>（指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察などの取組記録や保健調査</li> <li>・健康診断の結果</li> <li>・新体力テストの結果</li> <li>・「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業を通しての取組み</li> </ul>

### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <p>○全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を毎日食べていますか。</li> </ul> <p>している：73.5％ どちらかといえば，している：14.8％ あまりしていない：7.7％ していない：3.9％</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか。</li> </ul>
--

している：34.8% どちらかといえば，している：43.9% あまりしていない：15.5% していない：5.8%

・毎日，同じくらいの時刻に起きていますか。

している：52.3% どちらかといえば，している：41.9% あまりしていない：3.9% していない：1.9%

・コロナ禍において，昨年より健康観察（検温）を継続して実施している。記入漏れ，検温忘れの生徒が少なくなった。

・保健室の調査では，今年度は授業中や部活動中にケガで来室する生徒は少ない。また，体調不良で来室する生徒も例年より少ない。

#### ○新体力テスト

・男子：握力，立幅跳が京都市平均より少し低く，それ以外の項目は少し上回った。

・女子：20mシャトルランが京都市平均よりほんの僅か低く，それ以外の項目は，上回った。

・男女とも，総合的な体力については，京都市の平均を上回っている。

自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙で，健康生活に関わる項目「朝食を毎日食べていますか。」において，「あまりしていない」「していない」で，10%を超え，全国，京都府よりも，少し高くなっていた。食育と合わせ，健康に関する課題と考えられる。</li><li>・コロナ禍において，感染対策を生徒も意識をして取組，健康状態について意識は高まっている。</li><li>・新体力テストの結果を踏まえ，さらに向上を図れるように，保健体育の授業や部活動を計画的に進めることが必要である。</li><li>・「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業の取組みが，計画通りに進められていない。この取り組みを契機に，自分自身の健康について考えさせることができるかが課題である。</li></ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・毎朝の健康観察を通して，生徒はもちろん，教職員の健康に対する意識向上を図るとともに，生徒の健康状況の把握に努めたい。</li><li>・健康に関わる生活習慣の見直しを図るための，「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業を踏まえ，健康教育を推進する。</li><li>・体力向上を図るため，部活動において技術的なトレーニングばかりではなく，基礎体力向上のためのトレーニングを取り入れる。</li></ul>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・健康観察などの取組記録や保健調査</li><li>・生徒や保護者からの意見集約</li><li>・学校保健委員会での意見集約</li></ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・夏休み期間中のコロナ感染でクラスターが発生した状況について，質問があった。減少傾向ではあるが，感染防止対策については，しっかりと継続してほしいとのご意見が出た。</li><li>・1年生の総合で，防災について学習を進めていることを報告，学校運営協議会として，協力できることは積極的に支援していきたい。</li></ul>

#### (4) 学校独自の取組

##### 重点目標

- ・総合的な学習において系統的な取組を見直し、より効果的に探究活動を行うという流れを視野に入れて、各教科も連携させた取り組みを行う。
- ・生徒が身につけた知識や技能を活用する場面を学校行事などで設定し、生徒一人一人の活躍を促していく。
- ・様々な道徳課題を自分事としてとらえ、考え、議論する道徳教育の実践を図る。
- ・研究指定を活用し、学校組織の見直しを図る。

##### 具体的な取組

- ① 総合的な学習に時間の系統的な取組をすすめる。学校教育目標「心豊かに探究心をもち、未来へ歩み続ける生徒の育成」との関連で生徒が身につけた知識や技能を活用して、探究活動を行い、課題を解決するために共に学び考える力を、各教科との結びつきを意識して取り組む。
- ② 生徒が身につけた知識や技能を活用する場面として、行事の設定を行う。
- ③ 「しなやかな道徳」の研究指定を踏まえ、道徳教育の推進を図り、学校全体で取り組む。
- ④ 「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」も事業推進を踏まえ、健康教育の推進を図り、学校全体で取り組む。

##### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校運営協議会の理事など、行事に参加していただいた方々から感想や意見を聞き、検証していく。
- ・学校評価アンケートの項目に生徒が身につけた知識や技能を活用する場面としての行事について聞く項目を追加し検証をすすめていく。
- ・各教科の授業に探究活動を意識した取り組みの成果が反映され、授業改善にむすびついているか検証を行う。
- ・道徳の取り組みが、生徒一人一人の自尊感情（自己肯定感や自己有用感）や自己指導能力の育成につながっているか、ていねいに観察する。

#### 中間評価

##### 各種指標結果

###### ○学校アンケート項目

- ・「総合的な学習の時間」では、意欲的に取り組み、みんなと協力して探究活動を進めている。  
よくできている：45.1% 大体できている：48.8% あまりできていない：5.0% できていない：1.1%
- ・授業を通して、コミュニケーション能力（お互いに考えていることを伝え、理解しあえる力）が身についた。  
よくできている：50.6% 大体できている：43.0% あまりできていない：5.3% できていない：1.1%
- ・コロナ禍において、行事の中止や参観なしの開催で、意見を聞く機会がなかった。
- ・コロナ禍で、授業の形態も制約があり、グループでの討議など探究活動のもとになる、言語活動が十分にできなかった。

##### 自己評価

##### 分析（成果と課題）

- ・コロナ禍で、探究活動を意識した授業展開が難しい状況ではあるが、ICT活用による工夫が必要である。
- ・研究指定を活用し、学校組織の見直しを図れていない。チーフとなる責任を持った教員の育成

	<p>が重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しなやかな道徳」の取り組みに対して、指導案作りの段階から、指導主事の助言をいただいている。それを基にして授業改善を図る工夫が必要である。</li> <li>・コロナ禍で、感染症対策がメインとなり、「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業が進められていない。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動において、ICT活用による授業展開を工夫するための研修を計画し、教員の指導力を高めていきたい。</li> <li>・「しなやかな道徳」の研究発表に向け、学校全体で推進していくように、取り組んでいきたい。</li> <li>・「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業を、具体的に推進できるよう、推進委員からどんどん発信をしていく。</li> <li>・学校生活のさまざまな取組において、生徒の自己有用感や自尊感情が高められるように仕掛けを設定していきたい。</li> </ul>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動や道徳の取り組みに対して、教職員間で検証を行う。</li> <li>・研究指定の取り組みに対して、教職員間で検証を行う。</li> <li>・各取組に対して、生徒の振り返りから効果を検証する。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、実際の学校生活における子供たちの活動をする姿を見ることができないのが、大変残念である。学校運営協議会として、協力できることは積極的に支援していきたい。協力できる場面があれば、ぜひ声をかけてほしい。</li> </ul>

#### （５）教職員の働き方改革について

<p><b>重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育効果のあるもの取捨選択し優先順位をつけ、業務遂行を図る。</li> <li>・多忙の内訳を踏まえ、効率的に公務を進めることができるように、会議等の精選をすすめる。そして、持続可能な学校組織の構築を図る。</li> </ul>
<p><b>具体的な取組</b></p> <p>① 「１９：００電話対応終了，２０：００学校閉鎖」を全教職員で共有し、徹底を図る。</p> <p>② 毎週木曜日を「エコデー」として設定し，１９：００学校閉鎖」とする。</p> <p>③ 学校行事・会議等を精選し，教職員や生徒の発想転換で新しい取組を創造する。</p>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出退勤システムの数値</li> <li>・年休の取得</li> <li>・教職員の変容</li> </ul>

#### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務の状況は、昨年と比べると大きな変化はない。</li> <li>・昨年に比べ、夏季休業中で計画的に取得する教職員が、少し増えた。</li> <li>・教職員の意識改革には至っていない。</li> </ul>
--



自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務削減に向けた具体的な取組が進められていない。必要性を伝え、意識を持ってもらえるように働きかけてはいるが、大きな変化がない。</li> <li>・まだまだ働き方改革に対して意識の低い教職員が見られることは事実であり、時間外勤務削減に結びついていない。</li> <li>・仕事の偏りがあることもあり、特定の教職員に負担がかかっていることも事実である。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して時間外勤務の削減の必要性を伝えていきたい。（心身の保持増進につながる。教員を志望する方に向けて）</li> <li>・取組をチームとして進め、特定の教職員に仕事が偏らないように配慮していきたい。</li> <li>・時間の有効な使い方について、考えさせたい。（お互いに自分の得意な分野について他の教職員に力を貸して、効率よく仕事を進めてほしいことなど）</li> <li>・学校行事の見直しや精選を現在の社会の実状に応じて行っていく。</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出退勤システムの数値</li> <li>・面談を通じての教職員の感想</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難しい問題ではあるが、働き方改革の重要性を理解し、なぜ改革が必要なのかを考えてほしい。</li> </ul>

#### （６）いじめの防止等についての取組に向けて

<b>重点目標</b> <p>生徒全員が楽しく学校生活を送るために、教職員一人ひとりが「いじめ」に対する認識の向上を図るとともに、情報共有を徹底し、「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を教職員全員で組織的に行う。</p>
<b>具体的な取組</b> <p>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ</p>
<b>（取組結果を検証する）各種指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート（いじめに対するアンケート・クラスマネジメントシート等）</li> <li>・保護者アンケート</li> <li>・学校運営協議会理事による学校評価</li> </ul>

#### 中間評価

<b>各種指標結果</b> <p>○学校評価アンケート項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校教育目標に沿った教育ができています。」（教職員） <ul style="list-style-type: none"> <li>できている…3.0%      大体できている…90.0%      あまりできていない…7.0%</li> <li>できていない…0.0%      わからない…0.0%</li> </ul> </li> <li>・「学校・学級では楽しく過ごすこと」（生徒） <ul style="list-style-type: none"> <li>できている…69.9%      大体できている…28.0%      あまりできていない…1.4%</li> </ul> </li> </ul>
--

できていない…0.7%      わからない…0.0%

- ・「先生は、困ったときに親身になって相談に応じてくれる。」(生徒)

できている…54.7%      大体できている…38.6%      あまりできていない…3.7%

できていない…3.0%      わからない…0.0%

- ・「先生は、学校で起こった問題（いじめなど）に対して、しっかり対処してくれる。」(生徒)

できている…60.5%      大体できている…35.4%      あまりできていない…2.5%

できていない…1.6%      わからない…0.0%

- ・「生徒には、困ったときに親身になって相談に応じている。」(教職員)

できている…37.0%      大体できている…63.0%      あまりできていない…0.0%

できていない…0.0%      わからない…0.0%

- ・「生徒は、学校で起こった問題（いじめなど）に対して、しっかり対処してくれると感じている。」

(教職員)

できている…10.0%      大体できている…77.0%      あまりできていない…13.0%

できていない…0.0%      わからない…3.8%

- ・「子供が困ったとき、教職員は親身になって相談に応じている」(保護者)

できている…14.0%      大体できている…50.3%      あまりできていない…14.0%

できていない…0.6%      わからない…21.2%

- ・「学校生活の中で、気になることがあった場合、教職員による適切な指導や家庭連絡をすること。」

(保護者)

できている…14.5%      大体できている…59.2%      あまりできていない…6.1%

できていない…1.7%      わからない…18.4%

- ・保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止基本方針や学校の取り組みを説明・周知している。  
学校評価の結果は、保護者には学校日より、HP、PTAを介して、学校運営協議会には理事会で説明・周知している。

- ・学校のいじめ対策委員会のメンバーについては学校日より等で紹介し、生徒には、いじめをはじめ何か困りごとがあればすぐに相談をすることを伝えている

自己評価

#### 分析（成果と課題）

・いじめアンケートの結果、小学校よりの関係から、いじめとして対処する事例があり、子どもから事実関係を確認し指導に当たり、保護者への連絡等の対応を素早く行うことで、それ以降大きなトラブルになることなく、生徒は学校生活を送っている。教職員が常に情報を共有し、指導がスムーズに進められていると考える。

・学校評価アンケートの結果を踏まえると、生徒は「困ったとき、教職員は親身になって相談に応じている。」について、90%以上が肯定的にとらえている。また生徒は「学校で起こった問題（いじめなど）に対して、しっかり対処してくれる。」についても95%以上が肯定的にとらえている。しかし保護者は「子供が困ったとき、教職員は親身になって相談に応じている」では約65%の方が肯定的ではあるが、約14%の方は否定的である。また「問題行動に対して、適切な指導、家庭連絡がされている。」については、約75%の方が肯定的ではあるが、約8%の方は否定的である。コロナ禍で、家庭訪問等ができない状況が影響しているのではないかと考えられる。どのような小さな問題でも保護者と連携をとり、担任等をはじめ、学年、生徒指導担当が中心に対応にあたり、信頼関係を築く必要があると考える。今後さらに教職員が情報

	<p>を共有して組織として対処することが不可欠である。このような生徒指導としての動きを，クラス経営や学校経営に活し，生徒自らの行動につなげられるようにする必要がある。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らが推進して「いじめ（嫌がらせも含む）は絶対許されない」という意識を高められる取組を進めていけるよう指導をしていく必要がある。そのために生徒一人ひとりの意識を高めるための取組の充実を図っていきたい。</li> </ul> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート（いじめに対するアンケート・クラスマネジメントシート等）</li> <li>・保護者アンケート</li> <li>・学校運営協議会理事による学校評価</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめはダメだ」「いじめを許さない」という指導だけでは不十分であると意見をいただき，「自分の気持ちを伝えたり，相手の気持ちを考えたりすること」生徒相互の思いをしっかりと理解できるような指導を考えてほしいとの要望が出た。生徒の心を揺るがす具体的な取り組みの必要性の指摘があった。</li> </ul>